

第6 効果の検証

戦略や計画は、策定することそれ自体が目的ではない。

施策効果の検証と改善については、その着実な実現に向け、市民や各種団体などの参画を得て、統計学の知識、社会調査の方法、定量的分析・定性的分析の手法を踏まえ⁴⁸、各取組などの調査・検証を行い、その結果に基づく見直し・改善を実行しながら、必要に応じて事業の内容や手法を見直すものとする。

実施手法についても、前例にとられることなく、あらゆる手段を検討し、実行しなければならぬ。

実行し、評価・検証し、改善する「PDCAサイクル」を回すことで、より効果的かつ効率的な課題解決に向けた取組へと改善し続けることが重要である⁴⁹。

成果指標や具体的な施策等は、2016年3月の後期計画策定時の状況等を踏まえて記載したものであり、計画中であっても、施策の実施状況など諸般の事情を総合的に勘案し、総合計画担当課と協議した上で、成果指標や施策の内容等を見直すことがあり得る。

⁴⁸ 森棟公夫・照井伸彦・中川満・西埜晴久・黒住英司『統計学 改訂版』（有斐閣・2015）、盛山和夫『社会調査法入門』（有斐閣・2004）G・キング・R・O コヘイン・S・ヴァーバ・真淵勝監訳『社会科学の
リサーチ・デザイン 定性的研究における科学的推論』（勁草書房・2004）

⁴⁹ 宇賀克也『政策評価の法制度 政策評価法・条例の解説』（有斐閣・2002）